

科 目 名	建築計画ⅠＢ							学 期	後 期
担当教員	横田 貴子	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必修	単位数	2
学習目的	二級建築士建築計画の範囲を学び、建築計画の基本を理解する。								
授業内容	二級建築士の建築計画を学ぶ。特に計画原論(環境工学)、建築設備、計画各論(一部)。								
学習目標	二級建築士の建築計画の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	総合資格学院 二級建築士学科 計画テキスト、問題集、トレイントレーニング※適宜プリント配布								
週数	授業計画					事前・事後の学習			
1	3-1 住宅建築	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
2	3-2 商業施設	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
3	確認テスト①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
4	3-3 文化施設	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
5	3-4 教育施設	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
6	3・5 医療・福祉施設	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
7	確認テスト②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
8	3-6 各部計画	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
9	3-6 各部計画	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
10	確認テスト③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
11	3-7 建築生産	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
12	3-8 都市計画	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
13	3-9 計画各論 用語 4 建築史	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
14	4 建築史	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
15	確認テスト③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
評価項目/割合		評 価 内 容							
評価基準	1. 課 題 20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況							
	2. 授業姿勢 30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか ④忘れ物をしていない、以上の観点から評価							
	3. テストその他 50 %	確認テスト、期末テストより評価							
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検 定・課外 授業実 施予定・ その他									

科 目 名	建築計画ⅠA							学 期	前 期
担当教員	横田 貴子	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必修	単位数	4
学習目的	二級建築士建築計画の範囲を学び、建築計画の基本を理解する。								
授業内容	二級建築士の建築計画を学ぶ。特に計画原論(環境工学)、建築設備、計画各論(一部)。								
学習目標	二級建築士の建築計画の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	総合資格学院 二級建築士学科 計画テキスト、問題集、トレイントレーニング※適宜プリント配布								
週数	授業計画					事前・事後の学習			
1	1-1 気候・空気	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
2	1-2 熱	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
3	1-3 光	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
4	1-4 音	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
5	1-5 色彩 1-6 計画原論 用語・単位	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
6	確認テスト①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
7	2-1 空調機械設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
8	2-2 給水設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
9	2-3 排水・衛生設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
10	確認テスト②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
11	2-4 電気・照明設備①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
12	2-4 電気・照明設備②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
13	2-5 消火・防災設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
14	2-6 環境・省エネルギー 2-7 建築設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
15	確認テスト③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
評価項目/割合		評 価 内 容							
評価基準	1. 課 題 20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況							
	2. 授業姿勢 30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか ④忘れ物をしていない、以上の観点から評価							
	3. テストその他 50 %	確認テスト、期末テストより評価							
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検 定・課外 授業実 施予定・ その他									

科 目 名	建築計画Ⅱ A						学 期	後 期	
担当教員	小林 弘二	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必修	単位数	2
学習目的	一級建築士建築計画の範囲を学ぶ。								
授業内容	一級建築士建築計画の範囲を学ぶ。								
学習目標	一級建築士の建築計画の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	TAC 1級建築士試験 学科Ⅰ新体系テキスト(計画)、TAC 過去問題集(計画)、その他適宜プリント配布								
週数	授業計画					事前・事後の学習			
1	1 建築士の職責・業務	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
2	2 建築物の環境共生	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
3	確認テスト①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
4	3 マネジメント	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
5	4-2 集合住宅	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
6	確認テスト②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
7	5 公共建築	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
8	5-8 公共建築の実例	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
9	確認テスト③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
10	4-3 劇場	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
11	7-2 面積算定・寸法設計の概要	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
12	確認テスト④	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
13	10 積算 8 都市計画	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
14	9 建築史	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
15	確認テスト⑤	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
評価項目/割合		評 価 内 容							
評価基準	1. 課 題 20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況							
	2. 授業姿勢 30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか ④忘れ物をしていない、以上の観点から評価							
	3. テストその他 50 %	確認テスト、期末テストより評価							
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検定・課外授業実施予定・その他									

科 目 名	建築設備ⅡA							学 期	前 期
担当教員	大楠 安紀	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必修	単位数	2
学習目的	一級建築士建築設備の範囲を学び、環境設備の基本を理解する。								
授業内容	一級建築士の設備を学ぶ。								
学習目標	一級建築士の設備の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	TAC 1級建築士試験 学科Ⅱ新体系テキスト(環境設備)、TAC 過去問題集(環境設備)、その他適宜プリント配布								
週数	授業計画					事前・事後の学習			
1	建築設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
2	建築設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
3	建築設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
4	空気調和設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
5	空気調和設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
6	空気調和設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
7	給排水衛生設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
8	給排水衛生設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
9	照明設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
10	照明設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
11	電気・輸送設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
12	電気・輸送設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
13	消火・防災設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
14	消火・防災設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
15	確認テスト	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
	評価項目/割合		評 価 内 容						
評価基準	1. 課 題	20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況						
	2. 授業姿勢	30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか ④忘れ物をしていない、以上の観点から評価						
	3. テストその他	50 %	確認テスト、期末テストより評価						
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検定・課外授業実施予定・その他									

科 目 名	建築法規ⅠA							学 期	前 期
担当教員	吉野 由美	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必修	単位数	2
学習目的	二級建築士建築法規の範囲を学び、建築法規の基本を理解する。								
授業内容	二級建築士の建築法規を学ぶ。特に建築基準法等。								
学習目標	二級建築士の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	総合資格学院 二級建築士学科 法規テキスト、問題集、トレイントレーニング、建築関係法令集(法令編)※適宜プリント配布								
週数	授業計画					事前・事後の学習			
1	1-1 用語の定義	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
2	1-2 確認申請・建築手続	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
3	1-3 面積・高さ等の算定	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
4	1-4 一般構造	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
5	確認テスト①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
6	1-5 耐火・防火	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
7	1-6 防火地域・準防火地域	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
8	1-7 防火区画	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
9	1-8 避難施設等	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
10	確認テスト②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
11	1-9 内装制限①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
12	1-9 内装制限②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
13	1-10 構造計算・構造強度	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
14	1-11 敷地等と道路	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
15	確認テスト③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
	評価項目/割合	評 価 内 容							
評価基準	1. 課 題 20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況							
	2. 授業姿勢 30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか ④忘れ物をしていない、以上の観点から評価							
	3. テストその他 50 %	確認テスト、期末テストより評価							
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検定・課外授業実施予定・その他									

科 目 名	建築法規ⅠB							学期	後 期
担当教員	吉野 由美	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必修	単位数	2
学習目的	二級建築士建築法規の範囲を学び、建築法規の基本を理解する。								
授業内容	二級建築士の建築法規を学ぶ。特に建築基準法等。								
学習目標	二級建築士の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	総合資格学院 二級建築士学科 法規テキスト、問題集、トレイントレーニング、建築関係法令集(法令編)※適宜プリント配布								
週数	授業計画					事前・事後の学習			
1	1-12 用途地域	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
2	1-13 建蔽率	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
3	1-14 容積率	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
4	1-15 高さ制限	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
5	確認テスト①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
6	1-16 日陰規制	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
7	1-17 雑則・その他の規定	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
8	2-1 建築士法	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
9	2-2 バリアフリー法	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
10	確認テスト②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
11	2-3 耐震改修促進法	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
12	2-4 品確法・瑕疵担保履行法	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
13	2-5 都市計画法	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
14	2-6 その他の関係法令	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
15	確認テスト③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
	評価項目/割合	評 価 内 容							
評価基準	1. 課 題 20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況							
	2. 授業姿勢 30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか ④忘れ物をしていない、以							
	3. テストその他 50 %	確認テスト、期末テストより評価							
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検 定・課外 授業実 施予定・ その他									

科 目 名	建築法規ⅡA							学 期	前 期
担当教員	吉野 由美	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必修	単位数	2
学習目的	一級建築士建築法規の範囲を学び、法規の基本を理解する。								
授業内容	一級建築士の法規を学ぶ。								
学習目標	一級建築士の法規の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	総合資格学院 学科過去問スーパー7、総合資格学院 1級建築士試験 学科 ポイント整理と確認問題、総合資格学院 1級建築士試験 学科 厳選								
週数	授業計画					事前・事後の学習			
1	1-1 建築士法	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
2	1-2 建設業法	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
3	2-1 建築基準法 用語の定義	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
4	2-1 建築基準法 用語の定義	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
5	確認テスト①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
6	2-2 確認申請等の手続き規定	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
7	2-2 確認申請等の手続き規定	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
8	2-3 防火関係規定①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
9	2-3 防火関係規定②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
10	確認テスト②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
11	2-4 避難関係規定①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
12	2-4 避難関係規定②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
13	2-5 内装制限等①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
14	2-5 内装制限等②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
15	確認テスト③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
評価項目/割合		評 価 内 容							
評価基準	1. 課 題 20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況							
	2. 授業姿勢 30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか ④忘れ物をしていない、以上の観点から評価							
	3. テストその他 50 %	確認テスト、期末テストより評価							
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検定・課外授業実施予定・その他									

科 目 名	建築構造力学ⅠA							学期	前 期
担当教員	竹村 哲也	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必修	単位数	2
学習目的	二級建築士建築構造(力学)の範囲を学び、構造力学の基本を理解する。								
授業内容	二級建築士の構造力学を学ぶ。特に力のつり合い、反力、応力(部材に生じる力)、トラス等。								
学習目標	二級建築士の構造の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	総合資格学院 二級建築士学科 構造テキスト、問題集、トレイントレーニング※適宜プリント配布								
週数	授業計画					事前・事後の学習			
1	0 基礎数学テスト	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
2	1-1 力のつり合い 1-1-1 力 1-1-2 モーメント	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
3	1-1-3 力の合成と分解 1-1-4 力のつり合い	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
4	1-1-5 構造物に働く力(過重) 1-2-1 構造物のモデル化	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
5	確認テスト①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
6	1-2 反力 1-2-2 支点と反力 1-2-3 構造物の種類	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
7	1-2-4 反力の求め方 1-2-4-1 基本	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
8	1-2-4-3 鉛直反力の公式	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
9	片持ち梁の反力 トラスの反力	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
10	静定ラーメンの反力	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
11	確認テスト②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
12	1-3-1 応力の種類 1-3-2 応力の求め方 基本	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
13	1-3-2 応力の求め方 応用	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
14	1-3-3 応力図	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
15	確認テスト③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
	評価項目/割合	評 価 内 容							
評価基準	1. 課 題 20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況							
	2. 授業姿勢 30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか ④忘れ物をしていない、以上の観点から評価							
	3. テストその他 50 %	確認テスト、期末テストより評価							
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検定・課外授業実施予定・その他									

科 目 名	建築構造力学ⅠB							学 期	後 期
担当教員	竹村 哲也	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必修	単位数	2
学習目的	二級建築士建築構造(力学)の範囲を学び、基本的な構造力学が理解出来るようになる。								
授業内容	二級建築士の構造力学を学ぶ。特に座屈、応力度等。								
学習目標	二級建築士の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	総合資格学院 二級建築士学科 構造テキスト、問題集、トレイントレーニング※適宜プリント配布								
週数	授業計画					事前・事後の学習			
1	前期の復習	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
2	1-4 トラス	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
3	1-4-2-1 切断法	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
4	1-4-2-2 図解法	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
5	確認テスト①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
6	1-5-1 断面一次モーメント	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
7	1-5-2 断面二次モーメント	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
8	1-5-3～1-5-5 断面係数～剛度と剛比	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
9	1-6 座屈	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
10	確認テスト②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
11	1-7-1～1-7-3 応力度の種類～せん断応力度	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
12	1-7-4 曲げ応力度	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
13	1-7-5 許容応力度	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
14	1-7-6、1-7-7 部材の変形、構造力学で用いる単位・用語	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
15	確認テスト③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わらせること						
評価項目/割合		評 価 内 容							
評価基準	1. 課 題 20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況							
	2. 授業姿勢 30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか ④忘れ物をしていない、以上の観点から評価							
	3. テストその他 50 %	確認テスト、期末テストより評価							
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検定・課外授業実施予定・その他									

科 目 名	建築材料ⅡA							学期	前 期
担当教員	竹村 哲也	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必修	単位数	2
学習目的	二級建築士建築構造(建築材料)の範囲を学び、建築材料の基本を理解する。								
授業内容	二級建築士の建築材料を学ぶ。特に木材、木質系材料、鉄筋コンクリート、鋼材等。								
学習目標	二級建築士の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	総合資格学院 二級建築士学科 構造テキスト、問題集、トレイントレーニング※適宜プリント配布								
週数	授業計画					事前・事後の学習			
1	2-4-1 木材①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
2	2-4-1 木材②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
3	2-4-2 木質系材料①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
4	2-4-2 木質系材料②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
5	確認テスト①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
6	2-5-1 鉄筋 2-5-2-1 セメント	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
7	2-5-2-2 骨材 2-5-2-3 各種強度	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
8	2-5-2-4 ヤング係数(弾性係数) 2-5-2-5 その他の性質	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
9	2-5-2-6 ワークビリティ(施工軟度) 2-5-2-7 コンクリートの調合 2-5-2-8 混和剤	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
10	確認テスト②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
11	2-7-1 鋼材①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
12	2-7-1 鋼材②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
13	2-7-1 鋼材③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
14	2-7-1 鋼材④	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
15	確認テスト③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと						
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること						
	評価項目/割合	評 価 内 容							
評価基準	1. 課 題 20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況							
	2. 授業姿勢 30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか ④忘れ物をしていない、以上の観点から評価							
	3. テストその他 50 %	確認テスト、期末テストより評価							
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検 定・課外 授業実 施予定・ その他									

科 目 名	3D CAD I A							学期	前	期
担当教員	熊谷 猛	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	1	
学習目的	3DCADを用いた3次元デザインの基礎の習得									
授業内容	Rhinceros(3DCAD)の基本操作の講義と実習									
学習目標	Rhincerosの基本操作の習得・3Dモデリングと図面作成・パラメトリックデザインの理解									
使用テキスト	「建築設計者のためのRhinceros」									
週数	授業計画									
1	・3DCAD及びRhinceros概説 ・モデリング体験(イスAの作成)									
2	・基本操作の説明と実習 ・各種オブジェクトの作成									
3	・オブジェクトの編集									
4	・レイヤー操作とマテリアルの編集 ・グループとブロックの作成									
5	・モデリング実習①(イスBの作成)									
6	・図面化の概説 ・図面化実習①									
7	・テキストチャ作成の概説と実習									
8	・モデリング実習②(インテリアデザインA)									
9	・図面化実習②									
10	・モデリング実習③-1(建物A)									
11	・モデリング実習③-2(建物A)									
12	・図面化実習③									
13	・パラメトリックデザインとビジュアルプログラミング及びGrasshopper概説 ・基本操作の説明と実習									
14	・ビジュアルプログラミング実習①(イスC)									
15	・ビジュアルプログラミング実習①(建物B)									
評価基準	評価項目/割合		評 価 内 容							
	1. 課 題	70 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況							
	2. 授業姿勢	30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか ④忘れ物をしていない、以上の観点から評価							
	3. テストその他	0 %								
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。									
目標検定・課外授業実施予定・その他										

科目名	課題解決学習ⅠA							学期	前期
担当教員	アドバイザー	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	自由選択	単位数	1
学習目的	様々な課題に取り組む								
授業内容	実践を交えてより深く考えていく								
学習目標	地域の関係企業と連携し建築・測量現場においての課題調査、研究、提案を行う								
使用テキスト									
週数	授業計画								
1	2年合同で授業を行う、現場視察等								
2	2年合同で授業を行う、現場視察等								
3	2年合同で授業を行う、現場視察等								
4	2年合同で授業を行う、現場視察等								
5	2年合同で授業を行う、現場視察等								
6	2年合同で授業を行う、現場視察等								
7	2年合同で授業を行う、現場視察等								
8	2年合同で授業を行う、現場視察等								
9	2年合同で授業を行う、現場視察等								
10	2年合同で授業を行う、現場視察等								
11	2年合同で授業を行う、現場視察等								
12	2年合同で授業を行う、現場視察等								
13	2年合同で授業を行う、現場視察等								
14	2年合同で授業を行う、現場視察等								
15	2年合同で授業を行う、現場視察等								
	評価項目/割合			評価内容					
評価基準	1. 課題 70 %			実習先からの評価をもとに算出					
	2. 授業姿勢 30 %			出席率などから算出					
	3. テストその他 0 %								
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検定・課外授業実施予定・その他									

科 目 名	総合演習ⅠA							学期	前 期
担当教員	アドバイザー	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	自由選択	単位数	1
学習目的	校外研修や企業連携授業などの学科活動を実施し、今後の就職への意識の向上や業界理解を促進する。								
授業内容	通年を通して実施される学科イベントに参加する。								
学習目標	学科活動に積極的に参加できる。校内外の人とコミュニケーションがとれる。								
使用テキスト	なし								
週数	授業計画								
1	イベント演習								
2	イベント演習								
3	イベント演習								
4	イベント演習								
5	イベント演習								
6	イベント演習								
7	イベント演習								
8	イベント演習								
9	イベント演習								
10	イベント演習								
11	イベント演習								
12	イベント演習								
13	イベント演習								
14	イベント演習								
15	イベント演習								
評価基	評価項目/割合			評 価 内 容					
	1. 課 題 50 %			課題及びレポートを評価する					
	2. 授業姿勢 30 %			無欠席での参加 身だしなみ・挨拶等ビジネスマナー					
	3. テストその他 20 %			イベント演習の成果を評価する					
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
外授業実施	不定期に実施される学科イベントがある場合がある。								

科 目 名	総合演習 I B							学期	後 期
担当教員	アドバイザー	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	自由選択	単位数	1
学習目的	校外研修や企業連携授業などの学科活動を実施し、今後の就職への意識の向上や業界理解を促進する。								
授業内容	通年を通して実施される学科イベントに参加する。								
学習目標	学科活動に積極的に参加できる。校内外の人とコミュニケーションがとれる。								
使用テキスト	なし								
週数	授業計画								
1	イベント演習								
2	イベント演習								
3	イベント演習								
4	イベント演習								
5	イベント演習								
6	イベント演習								
7	イベント演習								
8	イベント演習								
9	イベント演習								
10	イベント演習								
11	イベント演習								
12	イベント演習								
13	イベント演習								
14	イベント演習								
15	イベント演習								
評価基	評価項目/割合			評 価 内 容					
	1. 課 題 50 %			課題及びレポートを評価する					
	2. 授業姿勢 30 %			無欠席での参加 身だしなみ・挨拶等ビジネスマナー					
	3. テストその他 20 %			イベント演習の成果を評価する					
課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。									
外授業実施	不定期に実施される学科イベントがある場合がある。								

科 目 名	表現力 I A							学期	前	期
担当教員	長谷川万葉	科目区分	一般	授業方法	演習	分類	自由選択	単位数	1	
学習目的	学習を通して人との関わり合いを体験し、より良いリレーションを築く。社会において活用できるコミュニケーション能力やソーシャルスキルを身に付ける。 「人と対話できる」「チームで協働できる」「相手に伝わる表現力を持ち、人前で堂々と発表できる」「社会において自分らしさを発揮しつつ、より良い集団づくりに貢献できる」ことを目指す。									
授業内容	コミュニケーショントレーニングや演劇的手法を取り入れたワーク(インプロ、シアターゲーム)、ソーシャルスキルトレーニング、構成的グループエンカウンター等、様々なグループワークを通して、コミュニケーションを実践的に楽しく学ぶ。									
学習目標	学習を通して、明るい表情、正しい姿勢、相手に伝わる声、開かれた心等、接客やビジネスにもつながる健やかな心と体を育てる。 人と関わり合うことの楽しさを学び、自らのコミュニケーション能力を高める。自由な発想力や表現力等、人前でも堂々と発表できるような素地をつくる。									
使用テキスト	適宜、プリントを配布。									
週数	授業計画									
1	イントロダクション～授業内容の説明 自己分析と目標設定									
2	シアターゲームとコミュニケーショントレーニング									
3	雑談トレーニング									
4	対話と傾聴トレーニング									
5	相手に伝わる話し方トレーニング									
6	個人発表 SHOW&TELL									
7	コンテンポラリーダンス～言葉のいらないコミュニケーションを体験する									
8	インプロ(即興演劇)～「Yes、And」思考を体験する									
9	インプロ(即興演劇)～チーム全員でゼロから創造する									
10	ディスカッション									
11	ディベート									
12	スピーチ									
13	スピーチ									
14	個人発表									
15	まとめ									
評価基準	評価項目/割合		評 価 内 容							
	1. 課 題	40 %	授業内での課題(実技やワーク)に対して、①積極的、意欲的な参加 ②失敗を恐れず前向きに挑戦する姿勢 ③チームで協力し合う姿勢以上の観点から評価する。							
	2. 授業姿勢	30 %	①欠席・遅刻 ②挨拶・授業態度 ③提出物以上の観点から評価する。							
	3. テストその他	30 %	個人発表、グループ発表等。発表の出来、そこに至るまでの過程、取り組み姿勢を総合的に評価する。							
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。									
目標検定・課外授業実施予定・その他	授業の進捗状況、理解度を考慮したうえで、授業の実施順、内容を変更する場合あり。									

科 目 名	就職支援 I A							学期	前	期
担当教員	AD	科目区分	一般	授業方法	演習	分類	自由選択	単位数	1	
学習目的	働くことの意義と重要性について考える。									
授業内容	就職に向けて、必要な準備を段階的に進めていく。									
学習目標	働くことの意義と重要性を理解し、社会人となるための心構え、知識、マナーを身につける。									
使用テキスト	Bit就職ハンドブック									
週数	授業計画									
1	【オリエンテーション】 「何のために働くのか」「社会人としての心構え」「学生と社会人の違い」について(グループワーク)									
2	非認知能力の重要性、学科が目指す非認知能力について (学修到達度自己評価ヒアリングシート)									
3	働くことの責任と意義(グループワーク)									
4	【意識は行動の原点】 仕事の基本となる8つの意識について学ぶ(グループワーク)									
5	会社の仕事の決まりやしくみを理解する(グループワーク)									
6	人間関係とコミュニケーション(グループワーク) 非認知能力の振り返り自己分析①(学修到達度自己評価ヒアリングシート)									
7	ビジネスマナーの基本									
8	ビジネス文書「報告書の書き方」									
9	【礼儀としての身だしなみ】スーツ着こなしセミナー									
10	インターンシップの事前授業									
11	仕事の進め方(5W2H)(PDCA)と報告・連絡・相談									
12	指示の受け方と「報告、連絡、相談」の重要性和ポイントを知る。									
13	業界研究、企業研究、インターンシップ先検討									
14	インターンシップに向けての自己分析(エントリーシート作成)									
15	インターンシップに向けての目標設定									
評価基準	評価項目/割合			評 価 内 容						
	1. 課 題		40 %	課題プリント等からの評価をもとに算出						
	2. 授業姿勢		30 %	出席率および受講マナー、積極的に授業に参加しているか。以上の観点より算出						
	3. テストその他		30 %	確認テスト結果より算出						
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。									
目標検定・課外授業実施予定・その他										

科目名	就職支援ⅠB							学期	後期
担当教員	AD	科目区分	一般	授業方法	演習	分類	自由選択	単位数	1
学習目的	就職活動や仕事を行っていく上で知っておくべきルールやマナーを理解し、習得する。								
授業内容	就職に向けて、必要な準備を段階的に進めていく。								
学習目標	就職活動に直結する履歴書作成や模擬面接等を通して自己表現力、コミュニケーション力を身につける。								
使用テキスト	Bit就職ハンドブック								
週数	授業計画								
1	【オリエンテーション】 昨年度の実績、就職活動の流れ、社会の状況、心構えなどについて知る								
2	インターンシップの振り返り								
3	非認知能力の振り返り②(学修到達度自己評価ヒアリングシート)								
4	業界・職業研究								
5	企業研究								
6	自己分析講座								
7	履歴書・エントリーシートの書き方講座								
8	履歴書作成の実践①								
9	履歴書作成の実践②								
10	採用試験について(書類選考、面接、作文、適性検査能力試験、作品やポートフォリオ提出など)								
11	適性検査能力試験 模擬受験、Web性格診断								
12	今後の就活に向けて 就職活動の報告書の提出や活用方法、各種証明書の発行、求人マッチングシステム「UMP」活用について								
13	就活キックオフセミナー「働く意義や人生をかけて成長させたいことについて考える」「就職活動の流れと準備を理解する」(外部講師)								
14	面接対策講座								
15	非認知能力の振り返り自己分析③(学修到達度自己評価ヒアリングシート)								
	評価項目/割合			評価内容					
評価基準	1. 課題	40 %	課題プリント等からの評価をもとに算出						
	2. 授業姿勢	30 %	出席率および受講マナー、積極的に授業に参加しているか。以上の観点より算出						
	3. テストその他	30 %	確認テスト結果より算出						
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。								
目標検定・課外授業実施予定・その他									